



るるるる



2021 年
11 月
No.887

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631
■ウェブサイト■ <https://jelc.or.jp/>
■E-mail■ jelc@jelc.or.jp
■発行人■ 李明生 koho@jelc.or.jp
■印刷人■ 精文堂印刷株式会社
■定価■ 1部 40円(郵税を含む)
■振替口座■ 00190-7-71734

説教「天国に旅立たれた人たち」

日本福音ルーテル小岩教会牧師 内藤文子

「こう言つてから、『ラザロ、出て来なさい』と大声で叫ばれた。すると、死んでいた人が、手と足を布で巻かれたまま出て来た。顔は覆いで包まれていた。イエスは人々に、『ほどいてやつて、行かせなさい』と言われた。」

ヨハネによる福音書11章43〜44節



全聖徒主日を迎えます。私たちより前に、天国に旅立たれた人々を覚えよう。

教会によつては、召天者

のお写真を並べます。すでに天に召されていますがこ

の世にありし日の命が輝いていた頃のお姿が思い出されます。そしてそのおなつ

かしい笑顔を見ながら、私たちも、残された日々を主

にあつて、ありのままに安らかに歩みたいと願いま

す。それはまるで、私たちに「死に向けての準備、心構

えをしろなさい」と導いてくれているようです。牧師で

ある私であつても、死を前にすることになつたら、ど

うでしょう。衝撃を受け、まさに真剣に祈るでしょ

う。死と隣り合わせの生を



カラヴァッジオ作「ラザロの復活」(1609年頃)
メッシーナ州立美術館所蔵

一日一生きたながら、十字架

の贖いにすごることにより

救われる恵みをまさにま

のあたりにするでしょう。

ヨハネによる福音書11

章には墓に着いたイエス

さまがいます。その墓に病

気で葬られたラザロが

眠っています。そして、そ

にはイエスさまのお出でを

今か今かと待ち続けた姉

のマルタ。マルタが言いま

す。「主よ、四日もたつてい

ますから、もうにおいま

す。」(39節)遺体は腐り始

めている状況を伝えます。

イエスさまは、天を仰いで、

父なる神に感謝し、その

後、墓に葬られたラザロを

大声で呼びます。「ラザロ、

出て来なさい。」(43節)ラ

ザロは手と足を布で巻か

れたまま出て来ました。

人間の悲しみの極み、そ

れは愛する者の死。誰もが

遭遇します。それは、すべて

の人の上に起きてくるので

す。2千年前、ラザロとい

う1人の人の上にその悲しみ

が起きました。しかし、悲

しみを前に、ラザロを死か

ら生へよみがえらせるとい

う奇跡が起こったのです。

私たちは、時に不条理に

満ちたこの世を生き、そし

て命の限界を知り空しさを

感じます。しかし主イエ

スさまと出会い、十字架と

復活を信じる者は、苦難

の中にも、神が共にいてく

ださる。終わりの日には主

イエスさまと同じ栄光の

体に変えられるのです。

この約2年間、コロナ禍

の中、何人かの信仰の友を

天に送りました。新型コロナ

ウイルス感染防止のため、大

変親しくしていた方へ最後

のお別れをすることが許さ

れませんでした。家族

さえ病室に入ることが禁

止されました。お見舞

い出来なかつた近しい方々

が多くいます。残念な思

いは尽きませんが、信仰の友

たちは、皆主イエスさまと

共に歩みひっそりと天に

移つた。それにより、ひとり

ひとりへの神のなさる救

いのすべてが完結したと感じ

るとき、感謝にたえません。

もう6年前になります。

(コロナ禍ではありません

でしたが私が牧会してい

た教会のリーダー的役割

をしておられた1人の女

性信徒が亡くなりました。

しかし、死を覚悟してから

の2年の彼女の残した最

後の日々は、孤独の内にも、

主と共に歩みでした。

「炎天下日陰日陰を選

び歩き」末期のがんの闘病

を続けつつ、夏から秋に厳

しい暑さの中でも、なんと

か前向きに二歩一歩歩いた

彼女の残した俳句です。

主イエス・キリストへの

信仰を貫き、教会を愛して

いた彼女のそれからの、「終

活」の時は、牧師の私が

びつくりさせられるもので

した。「もう、あと数ヶ月し

か命は持ちません。今のう

ちに教会で、証しをさせて

ください。」ご自分からの

申し出で、礼拝の説教の後

に彼女は「主イエスさまと

の出会いと、教会生活。そ

して、晩年、熱心に取り組

んだ平和活動について。」を

証しされたのです。その後

は、家にあるものの整理。

手編みの衣類は、サイズの

合う方を尋ねて贈られる。

家事道具も、教会や個人へ

「使つてくださいね。」と分

かち合う。自分より高齢の

方のお祝いの会をどうし

てもして差し上げたいと、

痛む体を押して、企画・開

催したその宴席は驚く程、

心のこもったものでした。

最後に病床でお祈りし

た時に言われた言葉が忘

れられません。「こんなに長

く生きるとは思いません

でした。神様に与えられた

時間が残り少ないといわ

かつたとき、短い時間をい

かに質を豊かにするかを

心がけました。クオリ

ティーオブライフです。」「残

された時をどう生きよう

か。それは自分出来るこ

とを精一杯、神様のために、

隣人のために捧げるとい

うこと。信仰により、まっ

すぐつながらる神様の国への

最後の道のりを、彼女は歩

き終えたのです。

十



伊藤早奈

②〇「思い出」

「わたしは言つたであろ
う。『彼らを跡形もなく
し／人々から彼らの記
憶を消してしまおう』
と。」申命記32:26

「あーこんなこと忘れ
れたらいいのに。」「これ
はいつまでも覚えてたいな。」
でも記憶つて選べませ

んね。私は今、車椅子の生
活がほとんどです。自分の
足で歩いたり走ったりし

たことを忘れたと思つ
たことは何度もあります。
「記憶なんて無くなればど

んなに楽だろう」と。
でもこのことは忘れた
くないな、と忘れたくない

ことも自分にはいつぱい
あることを思います。病氣
で記憶を失っていく人に

な気がします。

病院などで出会いました。

ほとんどの方が自分で忘
れたくないことまで忘れ
ることがあり辛そうです。

覚えているからこそわか
ると言うことがいくつつか
思い出されます。自分で歩

けていた時に電車で席を
譲るか譲らないかとても
迷い、結果席を譲ろうと

して断られた経験があり
ました。逆に杖で歩くよ
うになり電車で立つてい

たら席を譲つて下さった
人がいて嬉しくて「ありが
とうございます。」と言

つて座りました。あれ私今
「ありがとう」つて言つた。
人から何かしてもら

うと私は大抵「すみませ
ん」と言っていました。何
も悪いことしていないの

に。感謝が謙遜になつて
いたかもしれない。た
だ譲る側の気持ちにな

ると別に謙遜して欲しい
わけではなく感謝され
るだけでも嬉しいんだと

思い「ありがとう」を伝
えることが増えたよう
な気がします。

2021
10/31
発売

教会讃美歌 増補分冊I

ルターの讃美歌・新訳讃美歌23巻を含む54曲収録

日本では紹介されていないルターの賛美歌を
日本語で歌えるようにしました。

現代の公衆による
創作賛美歌も収めています。

新しい式文に用いる
礼拝曲集も紹介しています。

ご購入の方法
全国のキリスト教書店、また一般の書店でもお求めいただけます。また日本福音ルーテル教会事務局でもお買い求めいただけます。(送料のご負担をお願いしています)

*連絡先
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町1-1
日本福音ルーテル教会 事務局
電話 03-3260-8631 FAX 03-3260-8641
メール: soumu08@jelc.or.jp 定価1,100円(税込)



11月は死者を覚える月、私たちにつながる大切な人々のことを想起する時です。私たち夫婦は2006年から2017年にかけて親を見送ってきました。それ以来最も慰められてきたオーディオブックをご紹介します。

慰められる声の力〜Graceful Passages〜

地震の後に火が起った。しかし、火の中にも主はおられなかった。火の後に、静かにささやく声が聞こえた。」(列王記上19:12)

このCDアルバムは私たち夫婦を深いところで慰め、支え、励ましてきてくれました。メッセージの内容は多様ですが、二つがinspirationalで、声のことばと音楽が心に響きます。聖書で「霊は

た12人のメッセージ(英語)と音楽です。「死ぬ瞬間」で知られるエリザベス・キューブラー・ロス、ム・ダス、ティクナット・ハム、マハトマ・ガンジーの孫等の声が文字としても記録されていて貴重な歴史証言となっています。

「息」とも「風」とも訳されますが、その息遣いは霊の臨在をすぐ身近に感じさせてくれ、悲しむ者に不思議な慰めを与えてくれます。呼吸が楽になるのです。私たちはこれまで少なからぬ方々にこのアルバムをお贈り

してきました。特に最初のLew Eystein (1916〜2000)の「Letting Yourself Be Loved」というメッセージで、家族の一人ひとりに「Farewell my son, farewell my daughter,

Farewell my father, farewell my mother」と親しく呼びかけながら「私を愛してくれてありがとう。私にあなたを愛させてくれてありがとう」と別れを告げる声は私の魂に響きます。「Farewell」(さよなら、う)とはなんと美しく温かな響きを持つ言葉であることでしょうか。それが私の心に深く響いてくるのは、親にきちん

と感謝と別れの言葉を告げることができなかったという悔いる気持ちが残っているためでしょう。御国においてもし再会が許されるならば、いろいろと話したいと思っています。COVID-19によって世界ではこれまで500万人もの生命が失われました。ここから嘆きの声が聞こえてくるように思います。天に召された者の魂のために、そして遺された者の魂のために、主の慰めと平安とお祈りいたします。

るならば、いろいろと話したいと思っています。COVID-19によって世界ではこれまで500万人もの生命が失われました。ここから嘆きの声が聞こえてくるように思います。天に召された者の魂のために、そして遺された者の魂のために、主の慰めと平安とお祈りいたします。

教会とカトリック教会が交わした「義認の教理に関する共同宣言」です(Joint Declaration on the Doctrine of Justification、頭文字をとってJDDJ)。救いは神からの賜物という信仰の根幹に関わる解釈について、これまで分裂していた歴史を解決しようと両教会が歩み寄り、署名した合意文書のことです。その後何らかの進展があったのかどうか気になるところですが、この歴史的宣言を他教会が受け入れたことについては、あまり知られていません。

理に関する共同宣言」20周年記念版です。英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語に翻訳されています。内容は、以下のよう

「教会讃美歌 増補」解説



⑰増補5番「いのちのさなか死に囲まれて」・増補6番「これこそ聖なる十の戒めよ」

讃美歌委員会

日笠山吉之
(札幌教会牧師)

増補5番「いのちのさなか死に囲まれて」

この賛美歌では、誰もが避けることのできない死を前にして、人は誰に救いを願うことが出来るのか、ということがまず問われます。キリスト者は幸

いなことにその答えを持っています。「主よ、あなただけ」と。それゆえ、後半では主を「聖なる神、私たちの神、慈愛の救い主、永遠の神」と呼ばわり、主に「死の淵から、助けてください」「陰府の火から、助けてください」「堅い信仰に立たせてください」と祈り、「キリエレイソン」(主よ、憐れみたまえの意)と締めくくられます。第1節は、8世紀に作られたラテン語の応答歌をルターがドイツ語訳にしたもの。ルターは、昔から歌い継がれてきたこの賛美歌の価値を認めていたのでしょう。さらにルターは、自身で2節と3節を書き

加えました。こうしてルターの手によって新たに生まれ変わった賛美歌は、1537年には早くも当時のカトリック教会の賛美歌集に収められました。良い歌は、教派を超えて広く用いられるという好例ですね。メロディーはルターによるものではなく、ツブルクで歌われていたようです。

増補6番「これこそ聖なる十の戒めよ」

言わずもがな「十戒」をテキストとするカテキズム(教理問答)コラールです。ルターは、子どもたちにもまた大人に対しても、生涯

にわたって信仰教育が必要であると考えていました。そのために産み出されたのが、ルーテル教会員なら誰でも一度は学んだことがある「エンキリデイオン(小教理問答)」です。然り、エンキリデイオンとは「必携」という意味ですから、洗礼や堅信の時だけでなく、信仰生活を全うするまで私たちは常にこれを傍に置いて学び続ける必要があるのです。ルターもそれを強く願っていたのでしよう。「エンキリデイオン」の筆頭に収録された「十戒」を歌えるようにしました。私たちは字面を追うだけではなかなか頭に入

てきませんが、それが歌にな

世界の教会の声

浅野直樹 Sr.
(世界宣教事市ヶ谷教会、スオミ教会牧師)

「義認の教理に関する共同宣言」その後

LWF、20周年記念版の出版
今から4年前、2017年の宗教改革500年記念は、現代を生きるルター派クリスチャンの信仰の記憶に深く刻まれたことと思います。実はもうひとつ、ルター派の信仰の歴史に残る大きな出来事がありました。こちらは神学に関する話題だったために、一般にはそれほど知られていませんが、今から22年前の宗教改革記念日、1999年10月31日にドイツのアウグスブルクで、ルーテル



20周年版は、教会の相互理解に向けての確かな進展があったことを証しています。
(「義認の教理に関する共同宣言」20周年記念版は以下のサイトからダウンロードできます。)



パンデミックの中の教会

西教区の取り組みから

西教区書記・伝道奉仕部長・西宮教会・神戸東教会・神戸教会牧師

西教区においては、特に関西圏を中心に多大な影響を受けた。まん延防止等重点措置下での各教会の判断は、まちまちであったが、緊急事態宣言下においてはすべての教会が礼拝堂に集つて

の礼拝を自粛せざるを得ない状況となった。また、関西地区以外の東中国地区、西中国地区においても、当該地域における感染者の状況によつて礼拝の自粛などの対応を余儀なくされた。

特に2021年は関西地区における状況が芳しくなかった。2回目〜4回目のいずれも多少の発令追加のタイミングのズレはあつたものの200日前後であり、1年の半

分以上の日々が緊急事態宣言下であり、首都圏同様に大変な状況に置かれ、礼拝においても既に半数近くの主日が自粛となつてゐる。

この間、西教区内の各教会は、Facebook・Youtubeでの配信など新しいツールを用いる教会、毎週の週報・説教要旨発送、メールでのお知らせなどでカバーする教会と対応は一定ではなかったが、各教会の状況に合わせて牧師役員会で判断されていた問題点として、

- ①新しいツール、特にインターネットを用いての礼拝は技術的差異、機材の差異などが大きく影響
- ②インターネット配信をしない教会の通信輸送料の増加。
- ③明確な基準が無く、各教会の判断にまつたく委任されていること。
- ④複数教会兼任の牧師の県外移動の問題（心理的、健康的不安、忌避感）

緊急事態宣言当該地域のために県外の担当教会に行けない事態の発生。特に④については、広範な地域を担う兼牧において、緊急事態宣言地域、感染者増加地域のため思いがあつても礼拝に行けない、執行できないということが生じている。これは首都圏、関西圏の牧師とは一線を画す事態であると言える。

このほど、JELAは日本福音ルーテル社団（Japan Evangelical Lutheran Association）という名称の社団法人から、財団法人に転換し、「一般財団法人JELA」となりました。ルーテルグループには多くの法人がありますが、JELAは1909年創立の一番古い法人です。創設当初は、アメリカのルーテル教会から来た宣教師たちの社団法人でした。戦前にできた教会、学校、福祉施設などの大半は、この社団法人の中にありました。しかし軍国主義の足音と共に、ひとは敵国・アメリカの影響を排除するた

め、ひとは宗教をも国の統制下に置くために、教会も学校も施設も分離させられ、宣教師は追放、宣教師社団は日本福音ルーテル社団と改名させられました。戦後は、教会・学校・施設の再建が、社団を通して米国教会からの莫大な援助を得て行われました。それが一段落して、日本の教会が経済的自給に踏み切ると、社団は宣教師会の土地や建物の管理団体という存在になりました。1985年に一人の国際難民のお世話を始めたのが、社団が新たな存在意義に目覚める契機になりました。やがて木造アパートを購入して本格的な難民シェルターを始めました。一時は社団法人を解散してはという話もあつたのですが、戦前から社会に大

ブックレビュー

「わかちあいの食卓」 小泉基著 (かんよう出版2021年)



秋山 仁 (豊中教会牧師・喜望峯の家代表)

2016年4月14日と16日、2度にわたる最大震度7の地震が熊本市方を襲いました。熊本市に隣接する益城町を中心に大きな被害がもたらされた「熊本地震」。このとき、熊本市内でも被害の大きかった東区にあつたのが、著者小泉基牧師

が当時牧会していた健軍教会でした。2度の大きな揺れにもかかわらず、健軍教会は、幸いにして「避難できません」という張り紙を出したそうです。2度目の大きな揺れの後、著者も家族共々、教会の駐車場で、近所から避難してきた人たちと一緒に、不安の夜を明かします。が、その翌日から、とりあえずの「私設」の避難所として、教会堂を開放することになります。その後四十数日間、健軍教会は、地域の避難所として、また地域への生活復旧支援の拠点として活動を続けました。

本書「わかちあいの食卓」は、このときの避難所開設から、その解消までの日々、牧師であつた著者が経験したことを通して、聖書を読んでいった二つの記録です。著者は被災直後から、SNSを通して被災地や避難所の様子を発信していました。それらの発信された情報が本書の下地になつてゐます。（小泉牧師のブログの日録は、地震発生の翌年に健軍教会がまとめた「あの時わたしは、熊本地震と健軍ルーテル教会」という文集に収録されています。）

「わかちあう食卓」という題名から明らかになうに、本書は避難所での食事や食卓の出来事、あるいは最寄りの小学校で行つた炊き出しなどを中心に記述されています。印象的な

記事の一つは、教会の駐車場で摂つた最初の朝食です。教会の女性会の方たちが、「何はなくともまず朝ごはん」と食卓の準備に向かい、「ペットボトルの水とお米とみそ、それにありあわせの乾物」で用意されたおにぎりとお味噌汁。教会の駐車場で、「避難して来られ、寒さの中で共に夜を明かした」近所さんと信徒さんたち20人ほどで囲む食卓で、小泉牧師は、詩篇23篇5節の言葉を連想しています。

また、被災2日後の礼拝で行つた愛餐（アガペーミール）でのパンのわかちあい（しかも避難者から提供されたチョコパン）も印象的です。それは、「分かち合うこと」で、共に支え合う

存在になる」という著者の言葉とともに、教会という共同体が、原始教会以来保つてきた「パン裂き」を中心としたものであることを、想起させます。各章は、また避難所の経験を通して聖書の言葉の解き明かしにもなつてゐます。「わかちあうこと」を中心に、避難されていた方々に寄り添いながら、健軍ルーテル避難所は活動していました。本書は、教会が本来潜在的に持つてゐる地域のなかでの役割を、あらためて教えてくれます。教会が地域における防災拠点の一つとなつてゐる、その実際の姿が垣間見られます。地域防災の観点からも、ぜひ本書を手にとられることをお勧めいたします。



JELA ミッションセンター 1階ホールにあるステンドグラス
マタイ伝 25章にある、飢えた人、渴いた人、旅人、裸の人、病人、牢にゐる人に手を差し伸べる様子を描いている

JELAが財団法人として出発

古屋四朗 (一般財団法人JELAA理事長・日吉教会)

このほど、JELAは日本福音ルーテル社団（Japan Evangelical Lutheran Association）という名称の社団法人から、財団法人に転換し、「一般財団法人JELA」となりました。

ルーテルグループには多くの法人がありますが、JELAは1909年創立の一番古い法人です。創設当初は、アメリカのルーテル教会から来た宣教師たちの社団法人でした。戦前にできた教会、学校、福祉施設などの大半は、この社団法人の中にありました。しかし軍国主義の足音と共に、ひとは敵国・アメリカの影響を排除するた

め、ひとは宗教をも国の統制下に置くために、教会も学校も施設も分離させられ、宣教師は追放、宣教師社団は日本福音ルーテル社団と改名させられました。戦後は、教会・学校・施設の再建が、社団を通して米国教会からの莫大な援助を得て行われました。それが一段落して、日本の教会が経済的自給に踏み切ると、社団は宣教師会の土地や建物の管理団体という存在になりました。1985年に一人の国際難民のお世話を始めたのが、社団が新たな存在意義に目覚める契機になりました。やがて木造アパートを購入して本格的な難民シェルターを始めました。一時は社団法人を解散してはという話もあつたのですが、戦前から社会に大

きな貢献をしてきた信用を活かして、教会ではできない公益活動をする団体に変身しようと決め、次々に新しいプログラムを始めました。国内外のパートナー団体との提携により、少ない職員で幅広い活動を展開しています。

次の目標は、公益法人になることです。公益法人になると、公益団体として高い信用を得ることができ、寄付者にも税制特典を提供できます。ルーテル教会の身内の団体ではなく、隣人愛に共感するすべての方々に参画していただける組織になります。しかし一方で、理念や運営体制は今後もルーテルグループの一員として安定させたい。そこで、法人形態を財団法人に転換した上で、幅広く継続的な寄付者を募り、この方々には「JELASaport」として参画していただくことにしました。また、正式名称からあえて「ルーテル」を外しました。「JELASaport」は、毎月または毎年一定額の寄付を通じて、継続的にJELAを支えてくださる方々です。金額は、高校生でもできる年額千円から、月額1万円まで、お気持ちで決めていただきます。JELAのホームページから登録できるので、あなたもJELASaportになつていただけませんか？

第7次総合方策の紹介(7)

事務局長 滝田浩之

■方策本文より

第7次総合方策主文

2. 宣教態勢

①個々の教会

日本福音ルーテル教会の宣教態勢は、個々の教会の宣教活動、それを支える教区による共同の宣教活動、さらに包括的に補う形で全体教会（本教会）の宣教活動により成り立っている。

①共同宣教

宣教の第一線は個々の教会であるが、それぞれに日本福音ルーテル教会の宣教の働きと責任を担っている。それゆえ、個々の教会と教区及び本教会が連携するために、日本福音ルーテル教会として宣教を担い合っている意識と一致が根底に保たれる必要がある。

②自給と教会形成

個々の教会が宣教する教会であるために、基本姿勢として自給を目指すことを前提として教会形成が目指されてきたが、それぞれの置かれた状況により個々の教会の共同により自給が果たされている現状がある。包括的には教区自給の態勢で進められている。

③適正規模

個々の教会の適正規模

というものは存在しない

が、宗教法人格のある教会の場合、役員の構成メンバーが3名を切った時、法人格を維持できないことを鑑み、現実的に役員

の任を果たすことがで

る役員5名の選出が難し

い状況に陥った場合を二

つの目安として、あえて伝

道所（集会所）となる

こと、あるいは建物の維

持に困難を覚える場合、

閉鎖、家庭集会として

再出発できる。何よりも

牧会が充実するためのあ

り方として、組織のあり

方、多様な礼拝の持ち方

があることを確認する。

教会種別のあり方も含め

て、規則も整備を進める。

②教区

①教区の責任

教区は与えられた地

域での宣教と、そこに

置かれている個々の教

会の伝道を推進する責

任を有する。

②宣教拠点の適正化

各教区の歴史及びそ

ぞれの宣教計画の独自性

を尊重しつつ、地域の協

力態勢の構築と教会間の

共同を進めるために、今

後も教区レベルで取り組

んでいくこととする。（全

③主日礼拝

個々の教会における共同、地区での共同による、兼牧、連立という兼任態勢にある教会の主日礼拝に関しては、日曜日のみに限定しない。また、毎週主日礼拝が行われることが望ましいが、個別の教会、あるいは地域によつては隔週、月1回程度であっても「魂の配慮の場」として礼拝が行われる場合、これを主日礼拝として理解する。

③本教会

①本教会事務局

全体教会の実務を担

う機能を果たすために、

以下の点に留意する。

a. 責任と権限の明確化

（本教会、教区）

b. 適正人数で処理可能

な態勢の確立（効率化）

事務局、室体制につい

て、より一層の職員のス

キルアップに取り組む。

これまでの事務局2名体

制の維持は困難であり、

事務局長も含め個教会

との兼務も視野にいれて

おく必要がある。

c. 宣教の責任主体は個々

の教会及び教区であるこ

との堅持

■解説

「1. 基本方針」に続

き「2. 宣教態勢」が

確認されます。

日本福音ルーテル教会

の宣教（伝道）の最前

線は、「個々の教会」に

あります。そして「個々

の教会」は孤立無援に、

それに当たるわけではあ

るからこそ、これを可

能にしてきたのです。も

ちろん、このような兼牧

体制の中で、礼拝時間

をずらす礼拝所もあり

ます。あるいは主日礼拝

の日曜日を変更する礼拝

所もあります。あるいは

牧師が司式する礼拝は

月1度程度になつてい

いた時代は、特別協力

金による牧師給の相互

支援という態勢によるも

のでした。しかし経済的

な相互支援は、この相

互の「支え合い」が見え

にくい側面もあつたかも

しれません。

しかし「個々の教会」

が教勢の低下の中で信徒

数や献金額が減少してい

ます。また牧師数減少

もあり居住しての牧師が

与えられない状況が恒常

化しています。このよう

な「個々の教会」の危機

が、この「支え合い」を

目に見えるものにしてい

ることを私たちは覚え

たいと思います。困難にあ

る「個々の教会」を地

区の教会と牧師は、これ

を支えることを自明のこ

ととして兼牧を受け入れ

てきました。このような

ことは「各個教会主義

の連合体」ではあり得な

いことです。牧師を送り

出す教会も、そして兼牧

を受け入れる教会も「包

括的」な一つのルーテル

教会であるという認識が

あるからこそ、これを可

能にしてきたのです。も

ちろん、このような兼牧

あるからこそ、これを可

能にしてきたのです。も

ちろん、このような兼牧

体制の中で、礼拝時間

をずらす礼拝所もあり

ます。あるいは主日礼拝

の日曜日を変更する礼拝

所もあります。あるいは

牧師が司式する礼拝は

月1度程度になつてい

いた時代は、特別協力

金による牧師給の相互

支援という態勢によるも

のでした。しかし経済的

な相互支援は、この相

互の「支え合い」が見え

にくい側面もあつたかも

しれません。

しかし「個々の教会」

が教勢の低下の中で信徒

数や献金額が減少してい

ます。また牧師数減少

もあり居住しての牧師が

与えられない状況が恒常

化しています。このよう

な「個々の教会」の危機

が、この「支え合い」を

目に見えるものにしてい

ることを私たちは覚え

たいと思います。困難にあ

る「個々の教会」を地

区の教会と牧師は、これ

を支えることを自明のこ

ととして兼牧を受け入れ

てきました。このような

ことは「各個教会主義

の連合体」ではあり得な

いことです。牧師を送り

出す教会も、そして兼牧

を受け入れる教会も「包

括的」な一つのルーテル

教会であるという認識が

あるからこそ、これを可

能にしてきたのです。も

ちろん、このような兼牧

「ありがとう神さま」みんなでつながろう！ Zoomでルーテル子どもキャンプ報告

池谷孝史

（TNG子ども部員・

博多教会・福岡西教会牧師

毎年夏に2泊3日で行

われていたルーテルこども

キャンプは、8／9（月・祝

）に、昨年に引き続いてオン

ラインで行われました。

昨年から日常生活のあ

らゆることが制限され、

直接顔を合わせることも

難しい状況だからこそ、

そんな日常で子どもたち

が見つけた「ありがとう

神さま」の気持ちを、参加

者がそれぞれ持ち寄つて、

「つながり」を持ちたいと

願つてのことでした。

当日は、青年のリード

での讚美、アイスブレイク

のゲームなどの後、参加

した子どもたちと青年に

「神さまありがとうと思

うことを分かち合つても

らいました。子どもたちは

画面上での初対面という

みんな集まって一緒に遊びたいです。（I・Hさん むさしの教会 小学5年）

最初は緊張したけど、色んな人と話していくうちに、緊張が解けて、楽しかった。

みんなとの交流を深められて嬉しかった。来年のこどもキャンプはみんなと会えるといいです。（M・Mさん 栄光教会藤枝礼拝堂 小学5年）

ぼくは、ルーテルこどもキャンプに参加して、たくさん仲間と会えて、とてもうれしかったです。主に感謝します。（A・Sさん 下関教会 小学6年）

今までは帰省のためにキャンプに参加できなかったが、今回は参加できて楽しかったです。他地域の教会の皆さんと交流出来て良かったです。（I・Hさん 東京教会 中学1年）

★B5チラシ「ベツレヘムの星（文字入り）」（絵・葉祥明氏）

★A4週報用紙「飼い葉桶」（絵・葉祥明氏）

お届けまでに2週間ほど頂きます。予めご了承ください。在庫確認等、お問い合わせ・お申し込みは事務局までお願いいたします。電話03(3)260)8631

日本福音ルーテル教会
作成週報用紙・チラシ・
ポストカードを
ご活用下さい。

昨年お知らせいたしま

したとおり、在庫整理にあ

たり、以下の日本福音ルー

テル教会作成週報用紙チ

ラシ・ポストカードについて

特別に送料のみのご負担

でお分けいたします。在庫

★ポストカード「ベツレヘムの星」（絵・葉祥明氏）

★バンドパンフレット「ガリラヤの湖畔にて」（絵・葉祥明氏）

★B5週報用紙「ベツレヘムの星」（絵・葉祥明氏）

★B5チラシ「飼い葉桶（文

字無し）」（絵・葉祥明氏）